



TITLE:

花山だより

AUTHOR(S):

---

CITATION:

花山だより. 天界 1937, 17(195): 349-349

ISSUE DATE:

1937-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167486>

RIGHT:

## 花 山 だ よ り

□五月晴の空に男の子を祝ふ鯉幟！この頃花山では、露臺の水溜めに鯉鯉が十數匹飼はれることになつた。鯉はまだ若い、花山の臺員達も若い、青年の活時代だ、花山に飼はれた鯉鯉は今何を考へてゐることか。

□水星日面經過觀測で臺灣から歸つた公文氏の苦心談は、攝氏30度餘の炎暑、熱氣流中の甚だしく不安定な太陽像、水星の行方？宿處の夜の蚊、ヤモリ、周圍の人々の涙ぐましい厚意、疲勞……………で終つた。

□在名古屋の村上忠敬氏の長日月の天文普及の苦心計畫が、汎太平洋平和博覽會内に天文部の出現となり、花山天文臺は90耗子午儀その他珍品を出展し、同氏の最も心血を注いだ直徑8.5米の大地球儀は近代科學館の全生命を宿し、博覽會中の呼物となつて、偉彩を放つた。此處にも愈々時代の動きが見える。

□國外ではペル1日食觀測團より屢々事情を報じ、天界誌上に異彩ある讀物となり、國內では生駒山上の新天文臺、天文博物館の工事進捗する。天上では火星が愈々世人の注目を惹いてゐる。昨年の日食の想出の日も近づいた。

(花星人記)

---

## 瀬 戸 だ よ り (5 月)

---

◇5月は、先月よりも天候悪く、殊に下旬に於て、梅雨型の陰鬱な天候が連日打ち續き、毎日毎日の天氣圖も奇妙な形を畫いた。

◇瀬戸觀測所より、5月中に發行された回報は、32號より、42號であつて東西兩天の、黃道光の異狀の明るさ等が報ぜられてゐる。又今月より氣象の方も、旬報が發行されるやうになり、近府縣各地の、測候所にも送られてゐる。

◇19日、山本夫人來所され、荒木氏、村長等と種々協議同日歸京された。

◇22日、荒木氏花山天文臺の研究會へ出席、26日夜歸所された。

◇松虫が鳴く、時鳥が夜もすがら鳴く。

(ミ、ス生)